開成町で子育てを楽しむ

パパのセナカ

開成町だからこそできる子育てのことや、子育てに対して
思っていることなど、先輩パパにお話をお聞きしました。

楽しみを共有できた阿波おどり

開成町で阿波おどりができることを知ったのは、子ども会で、長女が阿波おどりを始めたことがきっかけです。長女の練習に付き添っているうちに、楽しそう！と思い、私も参加しちゃいました（笑）

そんな私の楽しむ姿を見て、自然と家族全員が参加するようになりました。阿波おどりを通して、家族で楽しみを共有する喜びを感じています。

また、より家族のチームワークも増したような気がします。

※写真：湯川さん提供

まずは自分が楽しむこと

長女が生まれた時は、一人目ということもあって、妻は「家事も育児も完璧にやらなきゃ」と一生懸命になりすぎているようでした。

その後、子どもが4人になると、妻も「完璧なんて無理！家族が楽しく、元気に過ごせればいい」と割り切れるようになりました。

共働きということもあり、家事育児を分担していますが、明確にはあえて分けていません。無理はせず、お互いができる時に、できることをしようというスタンスでいます。今では子どもたちも大きくなったので、子どもも巻き込んで家のことをこなしています。

家事や育児も「家族のため」と気負いすぎると、心が疲れてしまいます。背伸びせず、まずは自分自身が楽しむことが大切だと思います。

▶湯川さん一家（上段左から、隼人さん、みさとちゃん、千夏（ちなつ）さん。下段左から、真妃（まき）ちゃん、功大（こうだい）くん、あかりちゃん）

湯川（ゆかわ） 隼人（はやと）さん

小学6年生、4年生、2年生、
6歳のお子さんを持つ四児のパパ

Pickup 開成町阿波おどり

町内には、各地域に阿波おどりの連（チーム）があり、毎年9月に開催される開成町阿波おどりで、踊りを披露します（今年は感染症対策のため中止）。「踊ってみたい！連に参加したい！」という方は、町産業振興課までご連絡ください。　産業振興課　☎0465-84-0317

パパを楽しむヒント

パパたちの姿から見えた「パパを楽しむ」ためのヒントのひとつ。それは、子育て自体を楽しむのと同時に、子どもをきっかけにした、パパ同士の繋がりや地域との繋がりを持ち、仕事だけではつくることのできない交流の輪を広げていくことではないでしょうか。

開成町は、今も昔も変わらず「地域」が「人」を迎え入れる懐の深さを持っています。子育てが一段落した後も繋がることができる、交流の輪を地域に築くことで、パパを楽しみませんか。

地域に支えられて

『家事や育児は妻がやるべき』という意識はありませんが、仕事があまりにも忙しく、結婚当初から妻に任せざるを得ない状況でした。

実父母は遠方のため、頼ることが難しく、私たち家族は、地域の皆さんに助けてもらいながらの子育てでした。

特に思い出に残っているのは、長男の幼稚園の遠足の日に、次男が熱を出してしまった時のことです。遠足には保護者の付き添いが必須、次男の看病もしなければならないという中、お隣さんが長男の遠足に同行してくれたのです。子どもたちをここまで育てられたのも、妻はもちろん、地域の皆さんの助けがあったからこそです。

最後のチャンスと地域への恩返し

私がおやじの会に入った理由は、子どもが中学生になるこのタイミングが、親として子どものために何かしてやれる最後の機会なのではと思ったことと、「地域に恩返しがしたい」という気持ちがあったからです。

これまで、子どもと触れ合える限られた時間の中でも、精一杯の愛情をもって接してきましたが、ふと、子どもの成長を感じた時に、「親が子どもにしてあげられることって限られているのではないか」と思いました。私の場合、子どもの中学校入学のタイミングが、親として子どものために何かしてあげられる最後の機会だと思いました。

おやじの会に参加する中で、他のお父さんたちとも顔見知りになることができました。顔見知りになることで、お互い安心できますし、もし困ったことがあっても、顔を知っているだけで、助けを求めやすいのではないかと思います。私たち家族が、地域の方に助けていただいたように、私自身も誰かの力になりたいと思っています。

※写真は、昨年実施したおやじの会の
美化活動

杉山（すぎやま） 宇史（たかし）さん

中学2年生と小学6年生の
お子さんを持つ二児のパパ

Pickup おやじの会

文命中学校の保護者（父親）有志により結成されています。学校行事の手伝いや校内清掃、夜間パトロールなどを行っています。父親同士の交流の場にもなっています。

「おやじの会」を取り上げた広報はコチラ